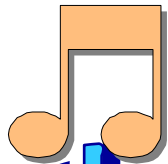


釣れ釣れなるままに

2004年思い出の釣行記 PART. 1



時の過ぎゆくままに

鹿島釣狂

岩見沢釣遊会第1回大会

| | |
|-------|---------------|
| ☆開催日 | 平成16年4月25日 |
| ☆開催場所 | 須築港～中歌港 |
| ☆入釣場所 | 島歌川→吹込漁港左平盤 |
| ☆潮 | 満潮 16:23 20cm |
| | 干潮 00:49 -3cm |
| ☆釣果 | アブラコ 420 mm 2 |
| | カジカ 351 mm 3 |
| | 重量 3680 g |
| ☆成績 | 合計点数 1139 点 |
| | 成績 準優勝 |
| | 持ち点 2 点 |
| | 累計点 2 点 (②) |

一期一会

砂川市への転勤辞令が下り、「星の降る里」芦別の地を離れることになった。職場があった常磐地区は純農村地域であり、純朴な人柄に加え、芦別市発祥の地としての誇りも高く、みなさん温かく接してくれた。2年間という短い間であったが、いざ離れるとなると一抹の寂しさが募る。何より、勤務後の夕まずめの一時を住宅の脇を流れる溪流でヤマメやニジマスと戯れることができなくなるのが辛い。

赴任地の砂川市は三井化学（旧東洋高圧）や北電火力発電所等の工場群がそびえ立っているが、その煙の勢いとともに過去の隆盛は見当たらない。テレビ放送が始まった当時はいち早くアンテナが立ち並んだ瓦屋根の社宅が、現在は管理棟一部を残すのみとなっており、市もまた、緑あふれる公園都市としての施策に方向を転換してきている。私の赴任先は丘の上にあり、そこから広がる田園風景と工場群、遠くに連なる増毛連峰の眺望を楽しむことができる。

住宅は真新しく快適である。居間から外が透けて見え、すきま風が入り込み体を震わせていた芦別のボロ住宅とは雲泥の差であり、特に水洗トイレになったことが女房を喜ばせている。2階は8畳間洋室と10畳間の和室で2部屋とも私が占拠し、釣り道具部屋と煙草部屋というゆとりのある空間である。

私にとって一番大切な釣り道具は引っ越し荷物の中には入れず、一旦岩見沢の自宅に避難させておいた。引っ越し荷物が片づいた頃、釣り大会の準備のために釣り道具を漫然と部屋に広げ、小物類の補充のために砂川市にある釣具店を物色して回った。（大漁屋いとう釣具店、フィッシングマルタカの）2店舗があり、釣り会を主催しているのかを訪ねたが、残念ながら磯釣りの会は無いということであった。釣り会があるのなら臨時にでもその大会に参加させて頂きたいと考えていたのだが・・・。

転勤後、釣遊会の仲間への挨拶状には「今年も負けないぞ」と記しておいたが、大会に何回参加できるかは未知数である。早速、行事予定を調べると、2、5、6、7回大会日は職場関係の行事と重なっている。何とか無理にでも都合を付けて参加したいものである。

命の洗濯

半年ぶりの釣りとなる。引越し等の喧噪から逃れ、一時の命の洗濯である。集合場所では、歓喜の気持ちをそのまま表現する者、静かな闘志を胸に秘めている者等様々だが、皆、その瞳には満面の笑みをたたえている。前野氏、嵐氏が下見に出かけており、型は小さいがホッケはどこでもよく釣れたと言う。島歌川でも試してみたところカジカ、アブラコが釣れたが、海藻がなく根掛かりがひどい状況で、魚も薄いので、島歌川に入るであろう私のために釣れた魚は全て放してきたと言う。すぐには信じがたい……。

兎にも角にも私は今年も島歌川に下り立った。これで3年連続である。浜辺はいつものように^{かんじやく}閑寂としており、島歌川の川沿いに漁師小屋が軒を連ねていた。それは背後に迫った崖と背中合わせに建っており、浜辺はそこを起点に左右に延びたような形をしていた。こんな所で漁が出来るのだろうかと心配したくなるような辺鄙（へんぴ）な海岸である。

島歌川河口は、太古からの永きにわたって、大水の度に上流から運び込まれたであろう大岩がごろごろとしており、風や波による浸食で幾分丸みを帯びたものになっている。少し波が高いがやれると判断し、その大岩の中で釣り座を構えた。見渡せる周辺には釣り人が誰もいない。

1本は2本バリ仕掛けで遠投する。1本はネット付き2本バリ仕掛けで中投する。1本はゴロ天秤ネット仕掛けで近投する。入釣時に状況を探るためのいつものパターンである。しばらくアタリがなく、波が高いこともあって根掛かりばかりを繰り返す。ゴロタ場なので仕掛けの取り込みから振り込むまでの一連の動作一つ一つが大変な作業となる。その作業にうんざりしてきた頃、近投の竿にアブラコ38cmが来た。我慢して打ち続ける。程なくカジカ35cmが釣れたが、またその後が続かない。



対応の違い

ドンコが2匹立て続けに来たのを切っ掛けに吹込漁港左平盤への移動を決意する。幸いなことに平盤には誰もいない。平盤上は波で洗われており、時折大きなウネリが来て平盤を乗り越え、漁港防波堤との間の溝にドッと入り込み、白く泡たった波が渦を巻いて溢れている。この平盤には所々大きなエンカマが口を開いているのに併せてキャップライトの明かりが心許ないために先端に出ての釣りは危険と判断する。おのずと平盤の根元に立ち込んでの釣りとならざるを得ない。荷物は盤の横に付いたテトラポットの上に置き、島歌川の2匹の獲物はフラシに入れエンカマに浸ける。三脚にはイカゴロバック、エサバック、虫餌入れ、仕掛け入れ、撒き餌用バック、オモリ袋をぶら下げて安定させ、竿2本をセットする。5時、準備を整えようやく打ち終えた。

小さなアタリが出るもののハリ掛かりしない。ホッケだろうか。大きなアタリが出て魚の引き込みを感じるのだが今度は根掛かりをはずせない。しばらく放置しておく魚の動きで根掛かりが外れ、カジカ35cmが上がってきた。カジカをハリから外さず、竿と魚を手に抱えて慎重にフラシまで運ぶ。魚を落としたら盤の上を伝う波に持って行かれるのである。続けて同じようなカジカが来たが、今度は少し余裕が出て、手に抱えるようなことはせずに平盤上を滑らせて運ぶ。

遠投した竿にアブラコ独特のアタリが2度来たので、素早く竿を手に持ち、3度目の大きなアタリに道糸を送り込みながらがっちり掛けた。アブラコ42cmが上がった。こいつは軍手をしっかりとはめ、エラと口の間に指を差し込み慎重に運んだ。これで、ようやく規定の2魚種5匹が揃った。

根掛かりしていた仕掛けが外れてホッケ35cmが上がった。これは審査には関係ないのでヒョイヒョイと気軽に持ち歩く。身長では僅かにカジカよりホッケに軍配が上がるようだが、重量ではもちろんカジカである。どちらを審査に提出するかを悩むような大きさであるが、それを上回るホッケやカジカが来れば問題はないと時間ぎりぎりまで粘った。後1投をと仕掛けを新しいものに変える。撒き餌も残ったものをひとまとめにしてでっかくつけた。残ったイカゴロも4本でゴロバリ4本に全部つけた。その重みで手前にドボンと落ちた。この最後の1投にいつも大物が来てくれるのだと言い聞かせて待ったが、結局魚は来なかった。最終的には釣れた魚がたったの6匹だったが、どれも比較的大きく、大会としては満足のいくものになった。

大海原の懐に抱かれて

優勝者は堀内氏で、得意のホヤの合い掛けが効をそうしたのでだろう。私はというと僅少差で準優勝に滑り込んだ。大前氏との差は3点で、身長に換算すると3mmの違い、そして5位までとの差も僅か20点という大接戦で、長さで言えば2cmの中に4人がひしめいたことになる。

岩見沢釣遊会は平成17年度、42周年を迎える歴史と伝統のある釣り会である。近年、

どの釣り会も会員が減少していると聞いているが我が会も例外ではない。ベテラン揃いで古くからの会員が寄る年波には勝てず会を抜けざるを得ないのが現状である。若い会員の入会を心待ちにしている。もちろん初心者も大歓迎である。大会毎に臨時会員も募っているので気軽にご一報願いたい。

| | | | |
|------------|---------|---------------|------------------|
| 連絡先 | カナダ屋釣具店 | 〒：岩見沢市4条西12丁目 | TEL：0126-24-4547 |
| | 鹿島釣狂 | | TEL：09028143226 |

私は未熟者ゆえ指導できる立場にはないが、たくさんの仲間と一緒に大海原に向かって竿を振り、大物を取り損ねた釣り談義に花を咲かせたいものである。

【つれづれ】

○寿都でいつも利用している食堂が見当たらず、蘭越でようやく昼食場所を確保した。蘭越に向かう途中、浜直送の魚店があり、開きホッケが回旋塔でクルクルと回っている。捧名人が開発したと言われているものを大型にしたものだ。

運転手が家庭へのお土産を求めて下りたのをきっかけに皆がゾロゾロとついて行き魚を物色し始めた。旨そうな開きホッケ4枚が千円の値段で売られており、皆につられて私も思わず買ってしまった。キャッチ&イートの私としては、帰宅してから自分の釣った魚を捌き、その全てを食べなければならないのに・・・。

○昼食時には、優勝者の堀内氏が景気良く？ビール10本を差し入れてくれて皆で祝杯をあげるようになった?? これが前例にならなければよいのだが。まあ、私がそんな心配をする必要はないと思うが???

○6 位 高橋昭吾 1070点 上美谷平盤B

○団体戦優勝(吉井985 大前1136 前野1119) 3240点

○5月の第2回大会は出席できない。この日は「砂川市緑と花の祭典」があり、私は実行委員会の1担当者となっており、花苗の配布や会場の巡視を依頼されているのだ。転勤早々サボることはできないだろう。